

令和4年度 文教委員会資料③

【所管事務の調査（報告）】

区民会議のリニューアルに向けた「地域デザイン会議」の取組状況について

資料

区民会議のリニューアルに向けた「地域デザイン会議」の取組状況

市 民 文 化 局

(令和4年5月27日)

区民会議のリニューアルに向けた「地域デザイン会議」の取組状況

資料

1 「地域デザイン会議」の位置付け

- 自治基本条例に基づき、平成18（2006）年から6期12年間にわたり、区民によって構成される「区民会議」を各区に設置し、参加と協働による地域課題の解決に向けた取組を進めてきた。
- これまで、各区で様々な活動の成果を挙げてきた一方で、制度運用における課題もあったことから、従前の区民会議条例を廃止するとともに、制度のあり方について検討し「区における行政への参加の考え方」を令和3（2021）年5月に策定した。
- 「区民会議」のリニューアルに向けて、より多くの市民が関わり参加しやすい機会を拡充するため、令和5（2023）年度までを試行期間とし、各区役所の創意工夫によって、様々な形式で区民による対話の場「地域デザイン会議」の創出に取り組む。

2 「地域デザイン会議」の制度運用の方向性

- 大都市における市民自治充実の観点から、身近な区を単位として、「新しい参加の場」を制度として保障・充実させるため、試行の取組と継続的な意見聴取を推進しながら、今まで以上に、より多くの市民が関わり参加しやすい機会の拡充を図る。
- 「新しい参加の場」については、一律の枠組みを最初から決めるのではなく、議題やテーマに応じて、その都度、弾力的に運用できる柔軟なしくみとする。
- より複雑化する地域課題に対応するため、「新しい参加の場」での対話による相乗効果と区役所と局等相互の適切な調整により、地域コミュニティにおける支え合う関係づくりと市民創発型の課題解決を推進する。

3 令和3（2021）年度の各区の取組状況等

	テーマ	概要 ※【 】は関連局	手法	構成メンバー	開催日時	開催場所	実施結果等
川崎区	食料支援を通じたつながりづくり	・感染症の影響などから、生活困窮家庭が増加傾向にあるなか、休校により給食など食事を満足にとれない子どもたちへの支援のため、併せて子育て家庭の孤立化防止のため、多様な主体が連携しながら見守り支え合う地域づくりがより一層求められていることから、支援の一手法としての、コロナ禍を踏まえた今後の食糧支援を通じたつながりづくりなどについて、意見交換を行う。 【こども未来局】	・ラウンドミーティング型 参加人数 23名	・子ども食堂等実施団体の代表者、支援等関係団体の代表者、区社会福祉協議会の担当者、行政（関係所管課）など	3月23日（水） 10時～12時	区役所会議室	・各実施団体から活動内容、区社会福祉協議会から活動団体への支援状況等、こども未来局から子ども・子育てに関する現況やそれらを踏まえた今後の支援策と事業展開の報告を行い、意見交換を行った。 ・会議の様子は、市政だより川崎区版5月号に掲載。 ・今後のこども未来局の施策の進捗状況を見ながら、同テーマで2回目を開催予定。
幸区	(川崎駅西口を中心とした) 地域資源を活用したまちの賑わい	・川崎駅西口は、大型の文化施設や商業施設を有し、今年度にはカワサキデルタがオープン、令和5年度にはホリプロの施設が開館する予定である。 ・新たなまちが形成されていく中、今後より一層川崎駅西口の持つ力を発揮し、市内外にその魅力を発信していくことで、区民の区への愛着と誇りの醸成に繋がるものと考えられる。このため、川崎駅西口周辺の事業者や区民の皆様と、まちの賑わいづくりについての意見交換を行う。 【まちづくり局】	・ラウンドミーティング型 参加人数 28名	・川崎駅西口関連事業者、地域の方々（町内会、商店会）、地域の子ども（小・中・高校生）	2月25日（金） 16時～18時	ステーションコンファレンス川崎 (カワサキデルタ内)	・川崎駅西口周辺の事業者や地元の町内会・商店会の方々等が、それぞれの活動や、施設の紹介などの意見交換をすることで、繋がりを持つことができた。 ・今後は、この繋がりを持って、今まで個々で行っていたイベントや取組をエリア一体で実施できるよう、まち全体の賑わいに向け、具体的な検討を令和4年度に行う。
中原区	市民参加型まちづくりの実現に向けて ～ITツールの活用も含めた住民間コミュニケーションの活性化～	・住民参加型のまちづくりに向けて、地域における住民主体の取組への参加を促進するため、検討のベースとなる区民の地域への接点を把握するとともに、デジタルツールの活用やデジタル格差対策なども視野に入れて対話を行う。 【総務企画局、市民文化局】	・ワークショップ型 参加人数 16名	・区内在住在勤在学などの住民（中原区ソーシャルデザインセンター検討会参加者、かわさき若者会議、子育て中の方など。）	2月23日（水・祝） 10時半～12時	完全オンライン (ZOOM)	・富士通（株）の協力のもと、参加者の日々のライフスタイルやデジタルツールの利用状況、地域において感じているニーズ等についてインタビューを行い、住民間コミュニケーションの活性化に必要な要素を検討。その結果を分析し、ITツールを活用したコミュニケーション活性化の手法について、引き続き意見交換を行う。
高津区	区民の環境配慮型ライフスタイルへの 行動変容の促進 (脱炭素アクション)	・若者世代を中心とした区民同士による未来志向の意見交換により、「脱炭素アクション」のアイデア等の創出を目指す。 ・地域の団体・企業等が持つ多様な地域資源を活用し、区民とともに、具体的かつ実現可能な「脱炭素アクション」をフットワークよく創出し、行動を起こしていくためのきっかけづくりとする。 【環境局】	・レクチャーフォーラム（国内外の事例紹介）＋ワークショップ型 参加人数 16名	・公募 (高津区内在住・在学・在勤の若者) ※高校生6名、大学生5名、社会人2名、オブザーバー3名	3月14日（月） 18時～20時半	完全オンライン (ZOOM)	・若者ならではの柔軟な視点による意見交換を通じて、脱炭素アクションに関する取組のアイデアを複数創出。 ・引き続き若者の参加も得ながら、多様な主体と連携し、区民の行動変容を促進するアクションの具現化を目指す。
宮前区	まちのひろば創出に向けた公共施設の 地域化等に関する検討	・「（仮称）宮前区の「希望のシナリオ」実現プロジェクト」と兼ねて実施。ミーティング①～③を通して、ラウンドテーブルを試行実施する中でまちのひろば創出に向けた公共施設の地域化等に関する検討を行う。 【市民文化局、建設緑政局】	①ワークショップ型 参加人数 34名 ②ラウンドミーティング型 参加人数 延べ約70名 ③ワークショップ型 参加人数 17名	・公募 (参加者：宮前区の希望のシナリオプロジェクトに興味のある方、地域で活用できる場を持つ企業等)	【全3回】 ①11月3日(火・祝) 13時半～16時半 ②11月～12月(随時) ③3月13日(日) 13時半～16時半	①区役所健診ホール ②区役所会議室、おちば公園等 ③オンライン開催	・公共施設の地域化に関するアンケートの実施。 ・町内会等による公園でのミニマルシェの開催の取組に参加し、この事例をきっかけに、地域のつながりづくり等の目的で公園を活用しやすくなるための課題等を共有し、議論を進め、宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドラインを策定。 ・公共施設は、施設の種類（例えば公園、いこいの家、こども文化センター、区役所市民広場等）によって施設利用に関する基準が異なり、施設の種類毎に丁寧な議論を進める。
多摩区	市民自治を一層進める地域人材による まちづくりの推進に向けた取組	・各地域課題対応事業に関わる団体等から事業横断的な意見やアイデアをいただき、更なる区民主体のまちづくりの推進につなげていく。また、ソーシャルデザインセンターをはじめとする参加団体等の関係構築・連携の契機とする。 【市民文化局】	・ワークショップ型 参加人数 27名	・町内会自治会、地域活動団体(公募)、3大学、ソーシャルデザインセンター、多摩区民活動・交流センター等関係者、行政(関係所管課)	令和4年5月22日(日) 13時半～16時 <small>※対面開催を重視したため、新型コロナウイルスによる影響を踏まえ令和3年度実施予定を延期して実施</small>	区役所会議室	・地域で活動する団体、地域活動への支援に取り組む団体及び3大学がお互いの活動を報告し、意見交換することにより、団体同士の連携促進や今後のより一層の交流、地域活動の活発化につながる契機となった。 ・区役所としては、意見交換を参考にして、地域課題対応事業の効果的な事業推進につなげる。
麻生区	新百合ヶ丘駅周辺の公園等を有効活用 した協働のまちづくり	・麻生区の豊かな環境資源である公園等の維持管理・利活用の現状を理解するとともに、団体、企業、区民等多様な主体との連携により公園等の有効活用を検討し、地域の自主的なグリーンコミュニティの形成につなげていく。 ・今回はキックオフとして「公共空間等の有効活用による新しいまちのマネジメント手法」について学び、現状把握・目的共有を図り、意見交換を行う。 【建設緑政局、まちづくり局】	・レクチャー型 参加人数 50名	・新百合ヶ丘駅周辺地域の関係者・企業・団体等	3月27日（日） 14時半～16時半	区役所会議室	・キックオフとして、新百合ヶ丘周辺の公園等の現状を説明し、専門家による公園等の有効活用による新たな参加を生み出す手法を学ぶ講演を行った。 ・次回以降、多くの区民が主体的に参加する公園等での具体的な活動に向けた検討や関係局等と連携し、多様な主体との協働による推進体制の検討を行う。

区民会議のリニューアルに向けた「地域デザイン会議」の取組状況

4 令和4（2022）年度の各区の取組予定

	テーマ	概要 ※【 】は関連局	手法・構成メンバー等	開催時期	備考(区民との対話の場を設定したい地域課題)
川崎区	外国人住民が居住する地域の活動に参加しながら、暮らしやすい共生の地域を目指すつながりづくり	・外国人住民が市内で最も多い区として、地域での共生に向けて、さまざまな個別の課題に順を追って取り組みながら、意見交換を行う。 【市民文化局】	・ラウンドミーティング型など ・外国コミュニティのリーダー、地域の活動団体の代表者、町内会・自治会等の関係者、行政（関係所管課）など	7～9月頃	①食料支援を通じたつながりづくり（2回目 令和3年度から継続） ②地域防災力の向上にむけた地域における防災対策
幸区	(川崎駅西口を中心とした) 地域資源を活用したまちの賑わい	・令和3年度の地域デザイン会議において、川崎駅西口の関係者が一堂に集まり、それぞれの活動や施設についての情報を共有した。これを踏まえ、区制50周年を契機とした行政×地域×事業者によるまちの賑わいに向けた具体的な取組についての意見交換を行う。 【まちづくり局】	・ラウンドミーティング型、ワークショップ型 ・川崎駅西口関連事業者、地域の方々（町内会、商店会）、地域の子ども（小・中・高校生）	7月～9月頃	①地域の美化活動の推進 ②帰宅困難者対策等地域防災対策の推進
中原区	市民参加型まちづくりの実現に向けて～ITツールの活用も含めた住民間コミュニケーションの活性化～	・住民参加型のまちづくりに向けて、地域における住民主体の取組への参加を促進するため、令和3年度の実施結果を踏まえ、取組の実践に向けた意見交換を進める。 【総務企画局、市民文化局】	・ワークショップ形式 ・構成メンバー未定	7月以降	①働く人のプレイスメイキング（交流するための空間・仕掛けづくり） ②区役所芝生広場の活用
高津区	区民の環境配慮型ライフスタイルへの行動変容の促進（脱炭素アクション）	・若者の柔軟な視点による意見交換を行った令和3年度の内容を踏まえ、区民の行動変容を促すアイデアについて、地域の団体・企業など多様な主体との連携、地域資源の活用、既存事業との連携などによる脱炭素アクションの具現化に向けた意見交換を行う。 【環境局】	・レクチャーフォーラム型、ワークショップ型等 ・若者世代、地域の団体・企業など	7月以降	①区民（若者世代）が取り組める脱炭素アクションに関する意見交換 ②ハザードマップや流域の境界などの地理的環境を踏まえ、気候変動適応策の観点から、区民の行動変容等に関する意見交換 ③地域資源（歴史、農業、ダンス等）を活用した交流とブランド力の創出
宮前区	公共施設の地域化等に関する検討	・令和3年度の取組や、令和3年度に実施した公共施設に関するアンケート等を踏まえながら、活用に関する関心の高い公共施設について、活用ニーズの把握、施設に関する基準や施設管理者側が懸念すること等を共有し、地域化に向けた議論を進める。 【市民文化局】	・ラウンドミーティング型 ・公募	下半期	①「宮前区における物販を伴うイベント等に関する公園利用ガイドライン」に基づく取組の推進 ②地域と民間企業をつなぐ取組
多摩区	「これからのコミュニティ施策の基本的考え方」に基づく今後の区域レベルの取組のあり方について	・市民創発による地域課題解決の一層の推進に向けて、ソーシャルデザインセンターが区域レベルのプラットフォームとしてより機能していくことを目指し、これまでの取組を振り返りながら、今後のあり方等について広く意見をいただく場とし、令和5年度以降の区域レベルの取組や区が実施する支援のあり方等の検討に向けた参考とする。 【市民文化局】	・フォーラム型、ワークショップ型、ラウンド・ミーティング型等 ・地域活動団体関係者、多摩ソーシャルデザインセンター関係者、公募区民	7月～9月頃	①公園緑地を支える市民協働による取組 ②フロンタウン生田等、地域資源の活用を視野に入れた多世代のまちづくりの推進
麻生区	新百合ヶ丘駅周辺の公園等を有効活用した協働のまちづくり	・麻生区の豊かな環境資源である公園等の維持管理・利活用の現状を理解するとともに、団体、企業、区民等多様な主体との連携により公園等の有効活用を検討し、地域の自主的なグリーンコミュニティの形成につなげていく。 ・令和3年度の結果を踏まえ、多くの区民が主体的に参加する公園等での具体的な活動に向けた検討や関係局等と連携し、多様な主体との協働による推進体制の検討を行う。 【建設緑政局、まちづくり局】	・ラウンドミーティング型、ワークショップ型、イベント型 ・新百合ヶ丘駅周辺地域の関係者・企業・団体等	6月下旬以降 2、3回	①SDGs 推進に向けたローカルプラットフォーム創設に向けた取組 ②多様な主体による支え合いの避難所運営 ③町内会・自治会ヒアリングを踏まえた地域づくり

5 今後のスケジュール

- ・令和4（2022）年度は「地域デザイン会議」を試行実施し、令和5（2023）年度に試行実施と併せて検証作業を行い、令和6（2024）年度の本格実施を目指して取組を進める。
- ・各区における試行実施の間も継続的に意見聴取を行い、本格実施後も柔軟なくみとして、常に試行錯誤し改善を図る。

